

# アジア共同学位開発プロジェクト 調査報告書

提出日：平成23年11月1日

報告者名：柴山直

○訪問先
中国・南京師範大学
○訪問期間
平成23年10月26日（水）
○参加者
柴山直 教育学研究科教授(団長)、上埜高志 教育学研究科教授、小川佳万 教育学研究科准教授、安保英勇 教育学研究科准教授、朴仙子教育研究支援者、小野寺香(大学院生 D2)
○訪問の目的・経緯等
本プロジェクトに関する意見交換と協力依頼
○先方対応者
胡建華教授（教育科学学院院長） 傅宏教授（教育科学学院副院長）      ほか2名
○成果
下記の成果が意見交換の結果得られた <ol style="list-style-type: none"><li>1. 言語の問題 南京師範大学の学生にとっては英語も日本語も難しい</li><li>2. 派遣人数は東北大学・南京師範大学とも数名規模になるだろうとの認識で一致</li><li>3. このプロジェクトの費用対効果は直接的には低いのではないかとの指摘があった。</li><li>4. 開始時期に関しては来年の夏、東北大学でサマーセミナーを試みそこでノウハウを蓄積し、可能ならば再来年度から本格開始する予定を南京師範大学サイドへ伝える。</li><li>5. 共同するとしたら教育心理学系プログラムの可能性が高いとの指摘があった。</li><li>6. 修士課程リーダー教員養成プログラムは難しいとの認識が南京師範大学サイドから伝えられた。理由は以下の2点。（1）夏2回を日本で過ごすだけの魅力がない（2）日本と中国では外国人子女の状況がことなる</li><li>7. いずれにしても中国では教育院の許可が必要で本プロジェクト協力に関するハードルは高いとの認識で一致</li><li>8. 協議継続可、具体的には障害は協議しながら乗り越えていくことで意見の一致があった。</li></ol>